

恩師からのたより(2年生～3年生)

	担任		副担任(2年生)
A組	中村敏男(社会)	30年前頃 逝去	不明
B組	宮下喜由(音楽)	83歳	吉越和美 逝去
C組	久保田泰男(国語)	5～6年前 逝去	不明
D組	大塚伍助(商業科)	84歳	小池時子(英語) 86歳
E組	横内忠史(社会)	84歳	中島道遙(電気科) 83歳

問合せ先 西 nishi490324@af.wakwak.com



二年前に妻を亡くし一人暮らしになりました。  
宮下喜由

六〇歳、七〇歳、海外旅行を楽しみました。  
小池時子

七〇歳、大切な人生のおいて自由な時に動き活躍ください。

私が蘇南に赴任した当時、昭和19年の春、天白川の校舎の裏側は、一面の茶畑だった。後に電気科棟が、建てられた場所である。五月に茶摘みをした。全校生徒が参加して、校長先生と、我々教師も加わり、一緒に作業した。

本宮川流域で南不常が茶葉採培の地獄である。あること知る。何日かして乾燥させた茶葉が学校に届いた。貰い座のて恩師と実家に送った。恩師からの返信に、香りの良い美味いお茶だと！評してあった。

この頃、教師たちは新しい校風創りを模索していた。全校生徒での遠足・徒歩大会は、その一環であつたと思う。往年を回想しながら、当時の天白川のひとコマを記す。

(大塚伍助)

今高校生に語りたこと 横内忠史

私は在職中、社会科担当で、高一あるいは高二の地理・世界史など授業を担当してきました。そのため私は退職後も現在の高校生に河して、今どんな内容の話をすべきなのかということを考えるようになりました。

そこで現在私は高校生にぜひ見せたい。そして勉強してほしいと考える。という施設があります。長野県南都下伊那の天竜川左岸に阿智村という集落があります。この村には満蒙開拓平和記念館という施設があります。この記念館をぜひ見せたい。そして満蒙開拓とはいかにいかにいう歴史的事実であつたかを、ぜひ調べるように歴史的事実であつたかを、ぜひ満蒙への移民の形態は三つほどあり、町村が単独で送出した分村移民が中心であつたか、年齢十五歳から十六歳(現在のうち三から高一)の少年による満蒙開拓青少年義勇隊とよばれる移民集団が存在した。彼らは農事訓練と軍事訓練を受けたり、ソ満国境に配置され関東軍の予備軍であつた。長野県は約七千人送り出し、千五百人以上が一九四五年八月に甲、ソ連軍への侵入以後犠牲とまっせました。

一九六四年(昭和三十九年)今から遡ること五十六年前の四月、可愛い顔した皆さんが、あの懐かしい桃介橋を渡つてお父さんかお母さんとご一緒に入学式に臨まれた日のこと覚えていますか。

入学式で難解な言葉を含んだ松峰校長の式辞を覚えていらっしゃる方はおられますか？

横内先生のクラスでの最初の挨拶の言葉はどうでしょうか。

夢のまた夢の入学式あれから五十六年、長い年月が過ぎ去りました。でも夢でいいんだと思います。初老の今懐かしい夢の世界を、皆さんと一緒にどうぞ。

その夢の隅っこへ私もちよつとだけ入らせてください。

中島道遙(八十三歳)